

8. 神の選びの結果

ペテロの手紙#8

<https://ichthys.com/Pet8.htm>

ロバート・D・ルギンビル博士著

第一ペテロ 1:1-2 の改訂訳：

イエス・キリストの使徒であるペテロから、父なる神の予知により、聖霊の聖別を受け、イエス・キリストの血の注ぎかけのもとに服従するために、選ばれた人々、すなわちポントス、ガラテヤ、カッパドキア、アジア、ビテニヤの各地に散らされ追放された人たちへ。あなたがたに恵みと平和が増し加わるように！

復習： 私たちはすでに見てきたように、クリスチャンとして「選ばれた者」、すなわち神の子どもとされるために特別に選ばれた者です。イエス・キリストが全人類のために十字架にかかり、死ぬことを受け入れてくださったゆえに、父なる神はすべての人が選ばれる機会を持つようにしてくださいました。私たちは皆、命と自由意志を与えられているので、神を知りたいと望む意志を神に示す機会が与えられているのです。この「選び」(エレクション)の根拠は、私たちがイエス・キリストを信じる決断にあります。ペテロの手紙の 2 節で、ペテロは三位一体のそれぞれの神が、この「私たちが神の家族と神の計画に選び入れるプロセス」において果たしている役割を示しています。

1. 父なる神は、私たちがクリスチャンとして神の家族に入ることを、宇宙が始まる前から計画しておられました。私たちはすでにこの概念を「予知の教理」(ギリシア語 プログノーシス、つまり「前もって知ること」prognosis)として学びました(ペテロ第 2 課・第 5 課参照)。神は全知であられる方です。つまり、過去・現在・未来のすべて、知り得るものはすべて知っておられるということです。現実のこと(実際に起こったこと、起こっていること、起こること)だけでなく、潜在的なこと(もし別の選択がされていたなら、もし別の行動が取られていたなら起こり得たこと)までも知っておられます。神は、世界を創造される前から、私たちが御子イエス・キリストを信じるようになることを「予知」しておられました(ローマ 8 章 29 節)。つまり、父なる神は、私たちが生まれるずっと前に、私たちがキリストを信じることを知っておられ、その機会を与えるために、ご自分の計画と私たちの人生を構成してくださったのです。実際に私たちがイエス・キリストを信じたとき、正式に神の家族に加えられます。しかし、父なる神はそれをすでにご存じであり、最初から計画しておられたのです。この真理を、ペテロは「神はあらかじめ知っておられる

者たちを、…あらかじめ定めて下さった…」と表現しています。

2. 御子イエス・キリストは、私たちが「選ばれる」ための代価を支払い、父なる神の計画の中心的な働きを成し遂げてくださいました。それは、私たちを贖うこと、つまり罪という奴隷状態から買い戻すことによって行われました。その代価は、私たちのために十字架で死んでくださった尊い犠牲です。イエスが十字架で成し遂げてくださった御業によって、私たちが神の家族に入ることを妨げるすべての障害は取り除かれました。（「贖いの教理」については、後の学びで詳しく扱うことになります。）

3. 聖霊は、時間の中で父なる神の計画を力づけて実行する働き手です。その計画において、神は「世の基の置かれる前から」（[ローマ 8 章 28-30 節](#); [ガラテヤ 1 章 15 節](#) 参照）、御子を信じるすべての者を選んでおられました。私たちがイエス・キリストを信じる時、聖霊は私たちを神の家族に入れてくださり、生まれながらにして備えられていたこの神の「選び」に完全にあずかせてくださいます。このとき始まるのが「聖別」です。これは、神に特別に選ばれ、神のものとして区別されることを意味します。聖霊はこの最初の「神に属する者となる歩み」を確かにしてくださるのです。そして、キリストにあずかる者として、私たちは皆、聖霊の守りのもとに置かれるだけでなく、聖霊の内住を持つ者となるのです。

少し難しい神学的な用語が使われていますが、ここで言われている内容そのものはそれほど難しくありません。神である御父は、私たちがキリストを信じることをあらかじめ知っておられ、それを実現するために必要なすべての備えをしてくださったのです。そして実際にキリストを信じる時、私たちの立場は完全に変わります。自分の人生をキリストにゆだねたその瞬間に、私たちは本当に神の子として選ばれるのです。私たちの最初の両親であるアダムとエバの失敗のために、人類すべては神から離れた状態に生まれます。つまり、生まれながらに罪の性質をもっているのです（[ローマ 7 章 7-25 節](#)）。この望ましくない状態の証拠は二つあります：

- すべての人が罪を犯す性質を持っていること（[ローマ 3 章 23 節](#); [列王記上 8 章 46 節](#)）。
- 最終的には誰もが肉体の死を迎えるという否定できない事実であり、これは罪に対する最初の刑罰です（[創世記 2 章 16-17 節](#)）。

しかし、私たちの代わりにすべての罪の罰を負ってくださったイエス・キリストを信じる時、私たちの立場は完全に変わります。私たちは「闇の支配から救い出され、御子の

愛の国に移される」のです([コロサイ 1 章 13 節](#))。この立場の変化(クリスチャンとなること)には多くの側面があり、聖書ではさまざまな表現で語られています:

- **義認**(Justification): 法的な観点から説明すると、私たちはキリストへの信仰によって「義とされる」と言われています([ローマ 3 章](#))。これは、神のみ前に罪人として有罪であった私たちが、イエス・キリストを信じることによって罪と罪責が洗い清められることを意味します。
- **子としての身分**(Adoption): クリスチャンとしての新しい立場を説明するもう一つの方法は、私たちが「神の子」とされたということです。パウロはこの過程を、キリストを信じるすべての人を御父が「養子」として受け入れることだと述べています。つまり、私たちはもはや自分の罪を明らかに示す神の律法の奴隷ではなく、イエス・キリストにあって愛される子どもとされたのです([ガラテヤ 3 章 21 節-4 章 7 節](#))。
- **聖別**(Sanctification): 一方、ペテロはこの「立場の変化」の別の側面を強調しています。それは「聖別」、つまり神にささげられ、神のものとされるという側面です。

Sanctification(聖別/聖化)の教理: 私たちがイエス・キリストを信じるときに起こることの一つは、神が聖霊を通して、私たちが世の他の人々とは異なる者、またご自身にとって特別な存在として区別してくださるということです。英語の sanctification (聖別/聖化)という言葉は、ラテン語の 2 つの単語に由来しています。sanctus (聖別された、神聖な、聖なる)と facio (〜にする)です。このラテン語に由来する言葉の背後には、ギリシヤ語の語根 hag があります。ギリシヤ語の形容詞 hagios (ハギオス)は「神々に献げられた、聖なる、神聖な」という意味です(有名な聖堂「ハギア・ソフィア」(聖なる知恵)をご存じかもしれません。現在は「ブルーモスク」と呼ばれています)。この hag の語根は、さらにギリシヤ語の動詞 hazomai (ハゾマイ)「恐れる、畏れる、敬う」と関連しています。つまり、ギリシヤ語で hag (ハグ)と呼ばれるものは、通常、宗教的な禁忌、呪い、または保護のもとにあるものでした。ハグとされたものは神の保護のもとにあると同時に、通常 of 世俗的なものから区別された存在だったのです。この両方の考え方が、聖書においてクリスチャンが「聖別された者」と呼ばれるときに含まれています。つまり、私たちは hag、すなわち聖別・奉献された者として、聖霊を通して父なる神によって、世から区別され、神のものとされているのです。聖別(consecration / sanctification)、すなわち神に対して hag であるということは、信者が神の保護のもとに置かれていることを意味すると同時に、信者の身分に積極的な変化が起こっていることを意味します。私たちはもはや世俗の人々ではなく、聖なる民なのです。そして神は、私たちがその立場にふさわしく生きることを求めておられます。

わたしが聖なる者であるから、あなたがたも聖なる者になるべきである(第一ペテロ 1 章 16 節)。(参照:[レビ記 11 章 44,45 節](#),[19 章 2 節](#); [20 章 7 節](#))

聖別(あるいは献身)は、クリスチャンとしての私たちの新しい身分の一つの側面です。この教理は、神にとって私たちは実際に「聖なる者」とされている、ということの意味しています。この「聖なる」という言葉をこれまで避けてきたのは、現代においてこの語に不幸な誤解が伴うことがあるからです。ペテロが 2 節で「私たちは聖霊による聖別を受け、選ばれた」と書いているとき、彼は、神がまず私たちを世の人々から区別し、それからご自身の家族へと選び入れられたのだと言っているのです。

聖霊が私たちを神の家族へと移してくださったのは、私たちを「聖なる者」とされたからです。しかし、聖書における「聖さ」は、多くの人が想像しているものとは異なります。真の聖さについて覚えておくべきいくつかの点があります。

a. **聖化<聖別>は神の御業です:** 初めの「聖さ」(聖別/献身)は、聖霊を通して父なる神が信者に与えられるものであり(本節、[第一ペテロ 1 章 2 節](#))、それは完全に神の御業です! 私たちは確かにキリストを信じますが、この行為には努力や功績は一切ありません。その結果として私たちが受ける「聖さ」は聖霊によって授けられるものであり、私たちの行いの善し悪しには全く依存していません。クリスチャンとして、私たちは神に対して「聖なる者」であり、つまり神は私たちをこの世の他の人々から特別に区別された、御自分のものとして見ておられるのです。これは私たちの行動の結果ではありません! もし私たちがクリスチャンでなくても「良い生活」を送っていたとしたら、そのことによって神の目に「聖い者」とされることはありません。逆に、クリスチャンであって私たちの行動が不完全であったとしても、私たちはなお神の目には「聖なる者」と見なされるのです(ただし、神の子としての道から逸れれば、神の懲らしめを受けるという原則を忘れない方が良いでしょう;[ヘブル 12 章 1-13 節](#))

b. **聖化はプロセスです:** 神の計画には三つの異なる段階(第一段階:救い、第二段階:時、第三段階:永遠)があるように、聖化にも対応する三つの段階がある。これまで、私たちは「第一段階の聖化」について論じてきました。クリスチャンになると、私たちは「神にとって聖なる者」となります(第一段階の**聖化**)。死後、私たちは神の御前で永遠に「聖なる者」あるいは「聖徒となります([黙示録 20 章 9 節](#))。しかし、時間(という次元)の中では、事態はもう少し難しいものです。この世界では、行動が問題となります。というのも、私たちが「立場上」(つまり、純粋にキリストを信じる者としての新しい身分の結果として)、神の仲介によって聖なる者となるのは事実

ですが、クリスチャンになった瞬間に、すべての悪い習慣が即座になくなるわけはありません。信者である私たちは、同じ肉体(罪が内在している:[ローマ 7 章 20 節](#))で生き続け、世は私たちを罪に誘惑し続けるでしょう([第一ヨハネ 2 章 15-17 節](#))。第二段階の聖化とは、私たちの行動が霊的成長と並行し、キリストにおける私たちの新しい身分と一致するようになる過程です。言い換えれば、救われたとき、私たちはキリストの兵士ですが、ベテランの兵士のように振る舞うようになるまでには時間がかかります。パウロはコリントの信徒への手紙([第一コリント 1 章 2 節](#))で、彼らを「イエス・キリストにあつて聖別された者」(身分的聖別、第一段階の聖別)であり、「聖別された者となるように召された者」(その地位にふさわしい振る舞いをするという、神から与えられた目的を行うように召された者)であると述べています。霊的に成長し続けることによってのみ、あらゆる意味で聖なる者であれという神の命令を遂行することに成功することを望むことができるのです。

c. **聖化は内面的なものです**: 聖書的な真の聖さ(聖化)は、内面からしか生まれないということが、おそらく最も重要なポイントでしょう。神の御言葉や霊的成長とは別に、自分の行動を変えようとするだけでは、意味のある進歩は望めません。主イエス・キリストは、やがて世に残される信者たちのために御父に祈り、「真理によって聖別してください」([ヨハネ 17 章 17 節](#))と願われました。聖さへの真の進歩を達成する唯一の方法は、霊的成長であり、それは聖書の真理を受け入れ、信じ、適用することに基づいています。霊的成長については、今後のレッスンでもっと多くを語るようになるでしょうが、この時点でもう一度、基本的な仕組みについて記しておきます。このプロセスを定期的かつ一貫して続けることで、あなたは霊的に成長し、行動が変わっていきます。聖霊と聖句によって、客観的かつ個人的に、やっつけられないことをしている、あるいはやるべきことをやっていないと確信したとき、あなたが霊的に成熟していればしているほど、その変化は本物で効果的なものになります(言うまでもなく、長続きします)。そのような変化は、聖典の真実で正当な教えに基づくのが最善であり、純粹に社会的圧力や、他の個人や集団の特異な基準に由来する行動修正よりも、霊的観点からはるかに価値があります。

白塗りを避けること: 主はパリサイ人たちを「白く塗った墓」と呼ばれました。なぜなら、彼らが示していた「聖さ」は、表面的な聖さにすぎなかったからです。彼らは洗礼を受けに来ました。神殿に行き、すべての宗教的な儀式に熱心に参加しました。献金をし、人前で立派に祈りました。自分たちは罪から遠く離れた存在だと感じていました。しかし、イエスは感心されませんでした。パリサイ人たちは真の聖さを示すどころか、実際には神への真の信仰すら持っていなかったからです。外側は、うわべだけを見れば白く清らかに見えました。しかし内側は、あらゆる汚れで満ちて

いたのです。神が心配されるのは、私たちの内側です。神は私たちの心がきよいことを求めておられます。もし心がきよくあり続けるなら、そして罪を神に告白し、神の聖なるみことばを受け取り続けるなら、私たちは内面から霊的に成長します。そしてこの真実な内なる変化は、必ず私たちの生活にも現れてくるのです。

[ペテロ#9 に続く]